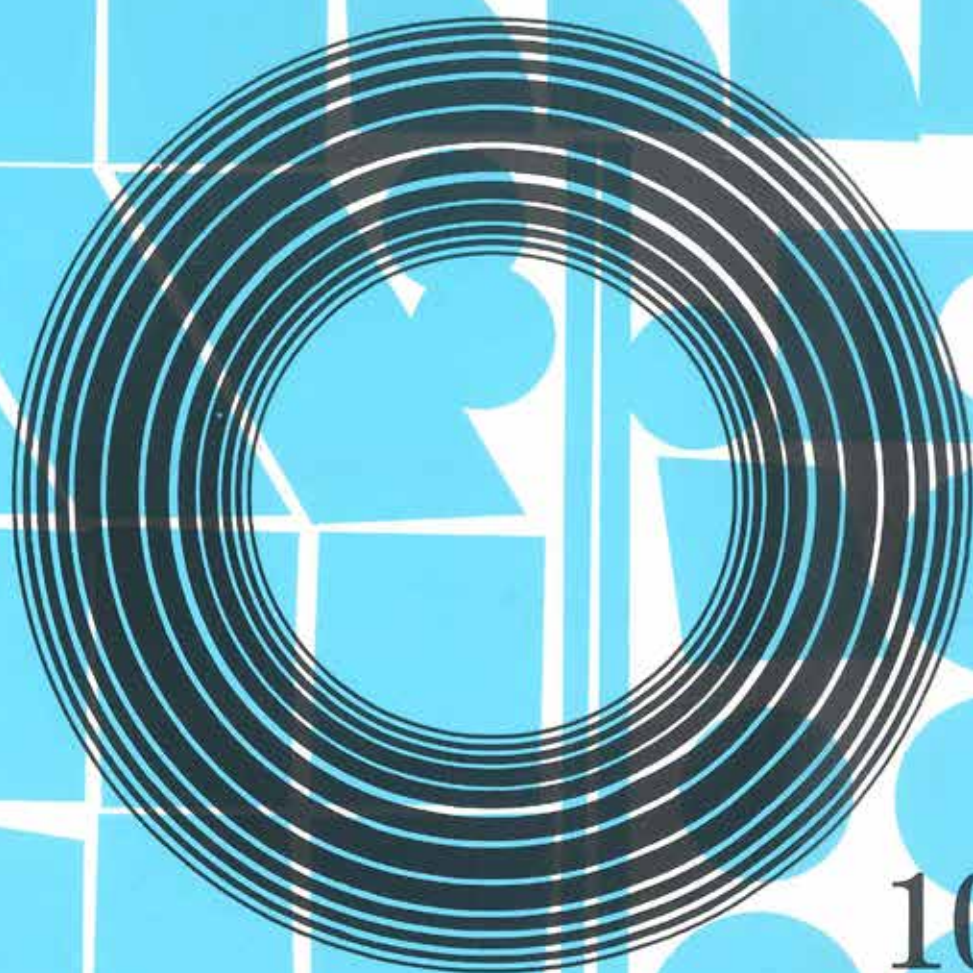


産業車両

産業車両と荷役機器



10
—
2023

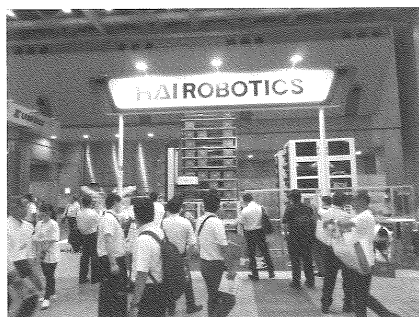
一般社団法人
日本産業車両協会

重量物搬送パレタイザーユニットなど多彩な機種を展示し多くの注目を浴びていた。
また、「オンライン展示特設サイト」も公開している

【株式会社 HAI ROBOTICS JAPAN】

倉庫上部の空間を有効活用できる「HAIPICK」の紹介を、実演デモを通じて行っていた。このシステムはロボットが自分で効率を考えて動き、保管容量を増やせる、短納期・低コストで導入できるといったメリットがあり、出荷効率の向上が図られている。

その他、次世代ソーティングロボット「LiBiao Robot t-Sort」の紹介も行い、素早く的確なソーティングを披露していた。



【三菱ロジスネクスト株式会社】

三菱重工業との共同出展で「Logisnext Solutions-私たちのソリューションがお客様にお応えいたします」をテーマに三菱重工グループ独自開発の自律化・知能化ソリューション「Σ SynX (シグマシンクス)」を単体製品として搭載することを目指して開発中の新型無人フォークリフト「AGF-X」「DECCO」2機種による無人物流オペレーションを初めて実演。三菱重工の提供する「予測計画」「状況判断」「匠の技」により、倉庫を無駄なく使う、配送遅れゼロといった顧客の抱える課題に応えるものとなっていた。

また、間もなく提供開始のリチウムイオン搭載フォークリフト「ALESIS」やレーザー誘導方式無人フォークリフト「RACK FORK Auto」の展示も行っていた。



【株式会社リンクス】

優れたコストパフォーマンスとスマートな物流を実現した自動走行搬送ロボット「iRAYPLE AMR」の実演を行っていた。高い停止精度や360度のカメラによる安心安全な運航が特徴として挙げられ、90秒でバッテリー交換が可能であり優れたバッテリーマネジメントも実現した自動充電スケジューリングやタスク管理、経路生成、群制御といったコントロールシステムで工場、倉庫内の物流の自動化に寄与している。



以上、出展された会員各社の展示内容の紹介を行ったが、その他にも、自社としての出展は

行わなかったものの、他社の出展に協力を行った会員もあったので、以下で紹介する。

【株式会社ジャロック】

「安全・安心・快適」な環境配慮型物流施設を手掛ける東京建物のブースにジャロックの高層ピッキング作業台車「Hypick Runner」が実演にて紹介されていた。この機種は高さ5mの棚からピッキングでき、通路幅1.2mも楽に走行できるもので、倉庫上部空間の有効活用に寄与している。なお、この機種はフォークリフト免許不要（高所安全教育と操作講習のみ必要）で使用できるとのことである。



【村田機械株式会社】

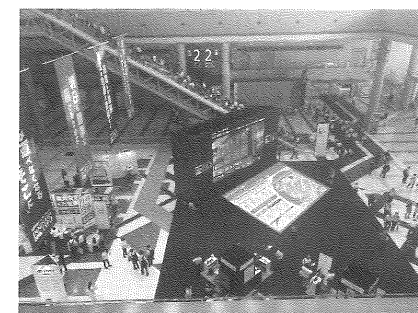
環境配慮型の物流ネットワークの構築や不動産コンサルティング事業を手掛ける霞ヶ関キャピタルのブースにて村田機械が施工した冷凍自動倉庫のプレゼンテーションを行っていた。従



来の倉庫では荷物量の少ない時期も固定賃料が発生していたが、この保管形態では預けたい時期、必要なスペース分だけ料金が発生し無駄を省くことができる。急なイベントや繁忙期、移転や建て替えのタイミングで大きなメリットを受けることができる。

5. 主催団体共同パビリオンの設置について

今回、新たな試みとして、西ホールのアトリウム中央において、“2024年のその先に～フィジカルインターネットによる未来への進化”をテーマに主催団体共同パビリオンが設けられた。2024年4月1日からのトラックドライバーの時間外労働上限規制により、運送・物流業者の売上や利益の減少、ひいてはドライバーの収入減少が懸念されているが、企業においては、サプライチェーンの構造改革や企業間の協調・連携による物流の効率化を徹底する必要があることから、2040年を目標とした物流のあるべき将来像である「フィジカルインターネット」の実現をテーマに、本パビリオン企画では、物流の「いま」を知り、「みらい」を創るための足掛かりとして、様々なソリューションを展示し、課題解決の糸口を見出すきっかけの場を提供するものとしたもの。主催団体はこれまでのように各自のブースを設けるのではなく、この共同パビリオン内でそれぞれ情報発信を行う形となった。



共同パビリオンの全景をホール2階から望む
(中央の大きなパネルの内容は次頁上段の通り)